



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和5年10月31日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和5年度 第7号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



失敗や挫折の向こうに

校長 中田 清人

先日行われた運動会では、多くの皆様にお越しいただきました。おかげさまで、大変すばらしいものになりました。ありがとうございます。ご家庭でも、子ども達のがんばりをたくさん褒めていただけたのではないかと思います。

さて、太宰治ではありませんが、私は、失敗や挫折ばかりの人生を歩んできました。子どもの頃の私は、自分に自信がもてず、「苦労はできることならしないほうがよい」という消極的な態度でした。周囲で活躍している友達を見ては、「あんな風になるなんて無理だな」という考え方をしていたと思います。今思い返すと、あまり挑戦や努力をせずに、失敗したら言い訳ばかりしていたなと反省しています。私に足りなかったのは、失敗や挫折から学び、次に生かすことでした。

現在の子供達は、どうなのでしょう。私などの子どもの頃に比べると、しっかり者が多いという気がします。何でも上手にこなすことができるし、素直で優しい子が多い。できることなら、大好きな子ども達には、苦労など知らずに成長し、幸せになってほしい。親心、いや校長の「じいじ心」としては、間違いなくそう感じています。でも、おそらく絶対に苦労や挫折は「向こうからやってくる」んです。遅かれ早かれ。望むと望まざるとにかかわらず。そう、まるで死神のように忍び寄ってくる。私たち大人は、それを経験的に学んでいます。

9月の末から10月の初旬にかけて、6年生の修学旅行、5年生の自然の教室を実施しました。どうして、日光に行く必要があるのでしょうか。どうして、南郷に行く必要があるのでしょうか。それは、その場所に行くしかできないことがあるからです。その場所だからこそ学べるがあるからです。自然の美しさや大切さについて学ぶことも目的の1つですが、家族から離れたところで、学習の目的や自分たちの課題と向き合い、子どもたち同士が力を合わせて解決していくことが大切だと私は考えています。私たち教員は、そうした環境づくりを意図的に行い、子ども達を育てているのです。何も、子ども達をツアー旅行よろしく、日光や南郷に物見遊山に行かせるわけではありません。

修学旅行や自然の学習を実施するにあたっては、子ども達と一緒に計画を立てたり役割分担を行ったりします。できるだけ、子ども達が主体的に行えるよう教員はサポートします。この度の2つの宿泊的行事においても、様々な場面でリーダーとなったり、代表のあいさつをしたりして、自分の役割を果たす子が多かったです。中には、非常に緊張しているのが伝わってくる子もいました。時には準備していた言葉が出てこずに、頭の中が真っ白になってしまうことがあったり、時間の見通しがもてなくて、教師から指導されたりすることもあります。時には、子どもたち同士で言い争うこともあります。でも、この緊張感やすんなりと行かないことがいいのです。困難に出会ったときに、どのようにして解決していくか自分達なりに考えたり、以前の失敗を思い返し改善したりすることに価値があるのです。だって、人生ってそういうものではないでしょうか？ *C'est la vie* (セラヴィ)。そして、それを乗り越えた先に、力を付けた子ども達がいるのです。苦労や挫折に直面した子どもを見ると、つい、手を貸してあげたくりますが、場合によっては、敢えて助言を与えるだけにしたり、見守ってあげたりすることも大切です。ですから、私は、失敗したり挫折したりした時こそ、成長するチャンスだと子ども達に伝えていきたいと思います。ビジネス書の古典ともいえる「ビジネスマンの父より息子への30通の手紙」の著者キングスレイ・ウォードは、その序文でこう述べています。「夢を見るがいい - 試すがいい - 失敗するがいい - 成功するがいい。」(新潮文庫 城山三郎 訳)